豊橋市　日本語初期支援コース通信

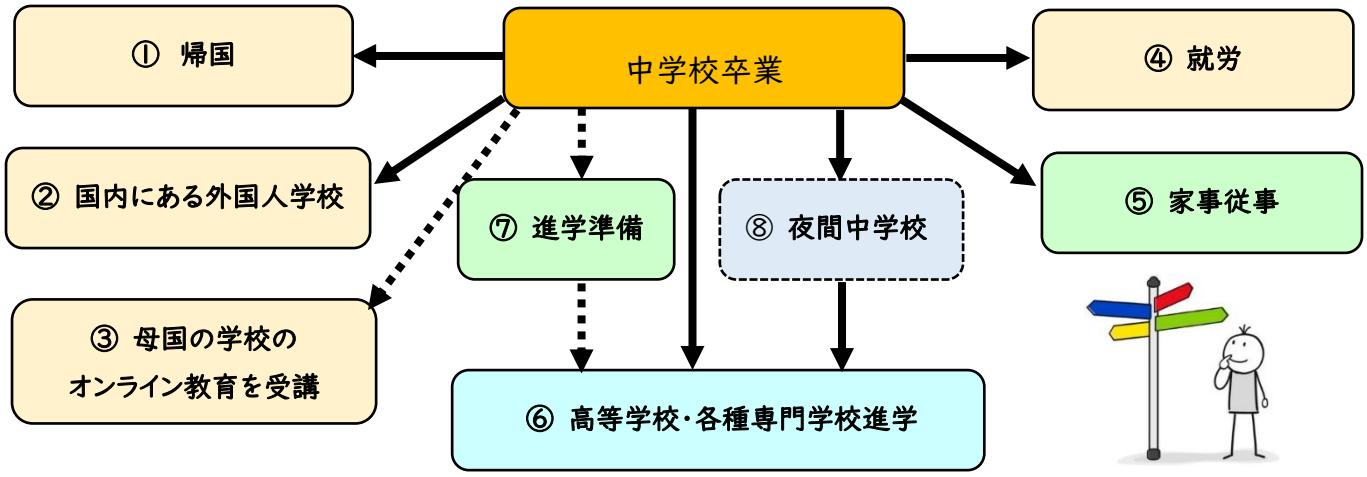
きぼうとみらい

2023年 12月
豊橋市教育委員会
日本語初期支援コース
NO. 16

初期支援コースを経た生徒のキャリア形成を考える

立冬が過ぎ，中学校ではすでに高校進学を見据えた保護者会が行われています。初期支援コースを修了し在籍校に戻った中学3年生たちも，進学を希望する生徒にとっては受験校を決定する時期です。一方で，進学をせず，帰国を考えている生徒や就労を希望している生徒もいて，進路選択は様々です。そこで今号は，中学校段階で来日した生徒たちにスポットを当て，それぞれのキャリア支援について考えていきたいと思います。

進路決定までのフローチャート



日本の教育機関に進学を希望しない場合

①については，いつ帰国する予定でいるのか，帰国して進学する場合は，どんな書類（在学証明や成績証明書など）が必要かを確認する必要があります。(帰国書類については，豊橋市外国人児童生徒教育資料 HP を参照してください。)

②は，母国の教育機関への進学です。豊橋市内にはブラジル人学校が2校あります。下地にある EAS はブラジル教育省の認可校で，愛知県の各種学校の認可を受けており，文部科学省の高等学校等就学支援金制度の対象校です。EAS の高等部を卒業した生徒は，日本の大学の受験資格も得られます。③また，コロナ禍で母国の高等教育機関がオンライン授業をしているケースもあります。いずれにしても，本人と保護者に将来を見据えた選択が必要であることを伝え，バイリンガル相談員にも相談して，詳細な情報を得るように助言をします。

④就労については，ハローワークでの中学卒業生への求人は，豊橋・田原市内で募集はなく（令和５年 11 月現在）大変厳しい状況です。家族や知り合いに紹介してもらうか，自宅近辺でアルバイトをする選択肢が現実的です。

日本の教育機関に進学を希望する場合

⑥進学を希望する生徒には，日本での進学の情報を早い時期から伝えていくことが大切です。教育委員会では，中学校における進路説明会や保護者会に通訳を派遣したり，母語訳を付けた「進路の手引き」を作成したりして，学校での進路指導の支援をしています。「進路の手引き」は教育委員会から市内の全中学校に配布済みです。中学校2年生の進路の説明会でも，ご活用ください。

⑧は，2025年度より，豊橋工科高校に「県立とよはし中学校」が開設される予定です。学習状況に応じて短縮や最長6年までの延長も可能で，小学校の授業の学びなおしができる「学習状況に応じたコース」や「日本語指導に重点を置いたコース」から選択できるようです。詳細は，愛知県教育委員会のホームページをご覧ください。

進学も就職もしない場合

⑤家事従事を選択する生徒については，その理由が多様な状況であるので，支援についても一概に言えません。しかし本人や保護者は，地域の支援者や支援機関の情報を知らないことの方が多く，孤立化することもあります。今後について相談できるように，支援機関につなげることも大切なことです。

⑦滞日歴の短い外国人生徒の中には，進学を希望しながら，日本語や学力に不安を感じている生徒は少なくありません。卒業直後の進学ではなく，1年後の進学を目指して，進学準備をすることも考えられます。

裏面に地域の支援機関の情報を挙げました。他にもあると思いますが，参考にしてください。

進学率，中退率から考えるセーフティーネットの必要性

※令和3年度 文部科学省 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査より

		日本語指導が必要な中学生等	全中学生等
中学生	進学率	89.9%	99.2%
	進学・就職せず	5.0%	0.6%
		日本語指導が必要な高校生等	全高校生等
高校生	中退率	6.7%	1.0%
	進学率	51.8%	73.4%
	非正規就職	39.0%	3.3%
	進学・就職せず	13.5%	6.4%

文部科学省の調査によれば，日本語指導が必要な中学生等（日本国籍も含む）の場合，進学率は全中学生等を9.3ポイント下回ります。進学も就学もしない子は全体の約8.3倍です。高校生は隔たりが一層大きく，進学率は全体より21.6ポイント低くなっています。中退率は全体の6.7倍，進学も就職もしない子は2.1倍に上ります。理由は様々に考えられますが，日本語の壁が1つの要因になっていることは確かでしょう。「学びの壁」を「学びの扉」へと変えていく支援が喫緊の課題となっています。

地域社会とのつながりを持ち続けるために

義務教育の段階では，日本語がわかる，わからないに関わらず，外国人児童生徒やその家庭は，学校を通して日本社会と密接な接点を持っていると言えます。けれども，中学校を卒業した後は，社会との接点が希薄になってしまう家庭も多く，折角進学した高校を誰にも相談せず，何のアドバイスも受けることなく，簡単に辞めてしまう生徒がいるのも現状です。外国人生徒（その家族も含む）が地域社会との接点を得ることで，自治体や NPO 団体等で提供される支援を受けられることにつながります。他者との接点があれば，現時点では就労や進学が難しい状況でも，将来的にそれぞれの可能性が高まるような選択肢を残しておくことができます。下記でご紹介する団体は，在学中の今からでも，関わりがもてる団体です。多様な生徒を受け入れる中で，教育関係者である私たちもアンテナを高くして，今まで知らなかった支援情報を知っていくことは，とても大切なことです。

公益財団法人　豊橋市国際交流協会

国際交流協会は，国際交流，多文化共生，人材育成，情報提供の大きな事業を柱に地域の国際化の推進を図っています。

11 月の 25 日（土）より，「にほんごきょうしつ」の申し込みが始まりました。日本語のレベルに応じて登録料（500 円）と教材費のみで 3 か月を 1 期とし，12 回受講できます。JLPT（日本語能力試験）対策としても利用できます。

豊橋市こども若者総合支援センター　ココエール

ココエールは，０歳から４０歳未満までの子どもや若者及びその家族に関する相談（子育て，発達，学校生活から就労など）から支援までを対応しています。学習支援として，週 1 回のペースで通うことができます。

英語が話せるスタッフもいるので，日本語でコミュニケーションが取りにくい場合でも対応していただける機関です。

一般財団法人　日本国際協力センター（JICE）

JICE は，留学生受入支援，国際研修，国際交流，国内における多文化共生や日本語教育を行っている団体です。就労（アルバイトも含む）を目的とした日本語教育が中心で，3つのレベルでそれぞれ約100時間の研修を受けられます。

会場は主に豊橋のアイプラザになりますが，オンラインでの受講も可能です。申込は，ハローワークです。

特定営利法人　フロンティアとよはし

豊橋の 3 か所（東陽地区市民館，岩田団地集会所，南陽地区市民館）で日本語教室や医療相談を行う団体として 15 年以上活動している多文化共生社会を目指すＮＰＯ法人です。

外国籍市民の抱える「教育」「生活」「就労」などの社会的課題を行政，学校，地縁組織，企業と共働し，様々なプログラムで包括的に支援しています。

将来，外国人児童生徒が多文化共生社会に参画し，共に地域の活性化を担う仲間として活躍できるよう，キャリア支援を皆で考えていきたいですね。